



とよかわの

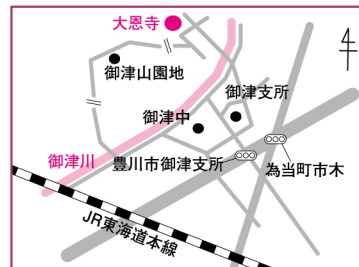
みつけた!



徳川家ゆかりの大恩寺

豊川市の観光資源を紹介します。

問合せ先 ● 市観光協会 89-2206



現在、御津山の麓にある大恩寺の始まりは、寺伝によれば新宮山にあった浄光院という三論宗の寺院で、文安元（1444）年に弘経寺（茨城県常総市）の僧了暁が荒廃していた浄光院を再興して浄土宗大連寺を開いたといえます。その後、延徳2（1490）年、松平第4代当主・松平親忠の援助により御津山の現在地に移転され、天文年中（1532～1555）には徳川家康の父である松平広忠によって建物の修復が行われるなど、松平家の庇護を受けてきました。さらに、松平家の子息がこの寺で僧になったことから、松平家にとって大恩があるということで、寺名を大恩寺に改めたといえます。

寺には、松平親忠や徳川家康が寄進したと伝えられる絵画など徳川家ゆかりの品々があり、国や県の文化財に指定されているものもあります。また、県指定文化財の山門は、牛久保牧野家の嫁ぎ先である大垣城主の戸田家より寄進されたもので、県内では数少ない大型の重層門です。境内の手前からこの山門や本堂を仰ぎ見る眺めは、どことなく古都の雰囲気を感じることができます。

